亀山（かめやま） 弘道（ひろみち） 議員

教育長就任に当たっての所信を問う

問 教育長就任に当たっての所信を問う。

答 三原に残り三原の成長・発展を支える人材、他の地域で我が国の成長・発展を担う人材、世界全体の発展を牽引する人材を育成する。何より全ての三原の子供たちが、将来豊かで充実した人生を送ることができるための力をしっかりつけることが使命だ。

知識ベースの学びから学習者基点の能動的で深い学びを取り入れたい。

問 貧困・人間関係・健康等で限度を超えたストレスにさらされている子に対する手だてを問う。

答 全ての子に、抱えている課題に応じたきめ細かい指導をするよう学校を指導するとともに、人的支援も含めて支援する。

問 中学校3年生まで勉強嫌いにならないように早い段階での手だてを手厚くしてはどうか。

答 児童・生徒が自ら疑問や課題を発見し、解決する場面を組み込んだ課題発見、解決学習などの実施に向けて今後も授業改善を進める。

問 教育委員の全員が男性で、5人のうち3人が教職経験者なので、教育委員会会議の運営に配慮がいるのではないか。

答 委員の経験や識見を活かし、教育行政へ反映するよう会議の活性化を図る。

問 長時間勤務により教職員の心身の健康が損なわれ、教育条件としては非常に不十分な現状だ。子供たちの教育条件を整えられない教育委員会は失格だ。教育条件をどう整えるのか問う。

答 先生方の心身が健康であることは重要だ。業務改善を積極的に行い、余裕を持って本来の業務である子供たちと向き合えるよう取り組む。

200メートル続く
車の入れない急坂な小路

車が入れない地域の消防・救急について

問 車の入れない地域での消防・救急対応を問う。

答 定期的に水利の状況や狭あいな道路などの確認をしている。固定電話・GPS機能のある携帯電話での通報なら、即座に通報場所を特定できるようにしているので、地域に合った指示が出動隊へ的確に行える。また、日常的に現場に合わせた展開をするため、様々な訓練を実施している。

陶（すえ） 範昭（のりあき） 議員

市道・農道などの管理について

問 センチピードグラスは、ムカデ芝とも言われ、生育が旺盛なため、畦畔管理を省力化するカバープランツとして全国各地で導入が進んでいる。

景観形成やコスト面からも、センチピードグラスを植栽して、市道・農道の草刈り作業の軽減を図ってはどうか。

福田地区のセンチピードグラス

答 農道の草刈り等の日常管理は、地域の関係者で行っている。

近年過疎化や高齢化により、農家の負担が増加しており、生活環境の維持や自然環境の保全が懸念されている。

一方、市道の草刈りは業務委託や市民のボランティア活動で行っていただいている。その為、草刈り作業の軽減化を図る必要があり、センチピードグラスの植栽は有効な手段と考える。

市内の先進地において、植生が安定するまでの期間と、維持管理について現地調査や聞き取りを行い検討する。

全市一斉の総合防災訓練について

問 三原市地域防災計画によると、各種防災訓練を実施し住民意識の向上を図るとある。

自主防災組織連絡協議会、防災ネットワーク、地域防災リーダー等の協力を得て、全市一斉の防災訓練を実施してはどうか。

答 三原市地域防災計画では、必要な防災訓練は定期的に計画し最も効果のある時期や場所等を決定して実施するものとしており、市民の生命を守る観点からも防災訓練の必要性を感じている。

自主防災組織の活性化も含め、さらなる市民の防災意識の向上を目指し、各種防災関係団体と協議し、住民参加型の実践的な訓練を積極的に検討していく。

実施時期については、関係団体と十分協議を重ね適切な時期に実施したい。

■その他の質問事項

- 農業振興について
- 主食用米の生産数量目標配分廃止後の影響と対策について

中重（なかしげ） 伸夫（のぶお） 議員

不燃物処理工場のアルミ缶問題について

問 不燃物処理工場で売却したアルミ缶の計量値誤差が出ており、市は調査するとしているが、❶調査結果について問う。❷市長は選挙期間中、市民に、第三者機関を設置し、調査していると述べているが、メンバー構成や調査の内容はどうか。

答 ❶3月議会後、職員による内部調査を実施した結果、主たる原因は特定できなかった。これ以上、行政による原因究明は困難であるので、現在警察署に相談している。❷第三者機関とは警察を念頭に置き、内部調査がある程度明らかになった段階で相談している。

問 ❶おかしいと気づいた昨年12月にすぐ警察に被害届を出さなかったのか。❷警察に相談したのはいつか。

答 ❶12月の時点では、問題意識がなかった。大変反省をしている。❷5月になって警察に相談した。

問 選挙期間中（4月）に第三者機関を設置して調査をしていると述べている。実際は5月になって警察に相談したということか。政治倫理に違反するのではないか。

答 選挙期間中は、個人的に選挙妨害の件を相談して、その続きとして、不燃物処理工場の方も調べてくださいと話をしている。

不燃物処理工場

天満商事による無許可営業の処分について

問 ❶市の行った事実確認の結果はどうか。❷行政指導という処分を決めた基準・判断は何か。

答 ❶竹原市・世羅町の許可を得ず一般廃棄物の収集運搬を行った事実について、事業者・竹原市・世羅町に確認した。❷広島県や他市の運用を確認し、まずは行政指導とした。

問 市長は、指導的立場の許可権者で他の業者や市民に対して模範を示す立場である。身内の処分は厳しくないと示しがつかないのではないか。市民は大変不信を持っている。

答 本件は、広島県と協議を行った結果で、行政指導が適当と考えている。

安藤（あんどう） 志保（しほ） 議員

学校給食の地場農産物の使用について

問 学校給食の地場農産物の割合が上昇してきている。この間の取り組み内容はどうか。総合的に上昇した一方で北部・西部調理場は下がっているが、原因は何か。

答 三原農協、広島中央農協、農林水産課との定期的な協議で、時期による、給食使用食材および各農協の出荷農産物を確認し、対応策を協議している。3共同調理場への運搬等の経費を支援する制度を平成27年度から実施し、また、農業法人、農協以外の生産者にも給食に使用する農産物情報を積極的に提供している。

問 今後の取り組みはどうか。

答 生産者と作付時期、収穫時期について今以上に密な連携をとり、旬の地場産農産物をたくさん献立に取り入れるよう取り組む。旬の時期だけでは使用割合を増やすことが困難なため、関係課で農家が収穫した農産物を長期間保存するための対応策を検討している。引き続き関係課、関係機関と連携を密にし、目標達成に向け取り組む。

不燃物処理工場の新設整備について

問 概要及びランニングコスト並びに市民負担の見込みはどうか。

答 新施設は、総事業費約25億円を見込み、現在の三原市清掃工場の敷地内に整備する予定だ。合併特例債の充当を見込み、31年度までに事業を進める。設備及び建物の維持管理に係る経費や分別収集体系の見直しによるコストの増も予想されるが、極力抑える方向で検討する。不燃物処理工場の新設により、不燃ごみの排出に係る有料制度の導入等は基本的には伴わない。燃やすごみの排出量を極力抑え、無料である資源ごみとして出していただき、リサイクルを促進したい。日々の生活に直接影響があることから、市民の理解が最も必要である。計画の段階から説明や意見を伺う場を極力設けてまいりたい。

■その他の質問事項

●市長等の政治倫理条例の制定について

正田洋一（しょうだ よういち）議員

倒壊危険空き家について

問 空家特措法における特定空き家の最初の判定が行われたと聞いた。現在、空家等対策計画の策定中であるが、危険度の著しく高い空家に前倒しの対策をぜひすすめるべきと感じる。直ちに対策が必要な最も危険度の高い重度2の建物の戸数およびスケジュールについて聞く。

答 重度2に該当する空き家は、市内35棟あり、多い地域から東町10棟、本町5棟、西宮4棟、大和4棟となっている。該当する物件は積極的に所有者に対して、助言、指導、勧告を実施し、除却を促す。今年度は、危険空き家の棟の除却費補助事業を新設し、10棟分の予算を計上している。

問 事業が動き出したことはあまり知られていない。周知について、町内向けの空き家ツアーの実施や、市政報告会などを活用してはどうか。

答 多くの空き家は町内会長をはじめとした地域の声の情報をもとに、調査をし、データベース化したもので、状況は刻々と変化している。町内会でないと把握できない情報もあり、今後とも連携を密にする。市政報告会での周知については検討する。

倒壊危険空き家

子育て支援策の拡充について

問 保育料について、周辺市町と比べて軽減措置が少ないという意見がある。また、本市独自の施策を持っていない。まずは、子育て支援策の拡充の視点で、他市で行っている施策を、財源への影響額を試算した上で、検討できないか。

答 隣接する市町では東広島市、尾道市、世羅町は、本市と同じ国の基準である。竹原市が第一子のカウントを18歳未満に引き上げる等の独自の基準を持っている。

　他市で行っている軽減を本市で行おうとする場合、財源確保が困難なことから実施に踏み切れない状況である。

問 財源の話は理解できるが、視点を変えて欲しい。例えば、子育て支援を拡充するために、公共施設マネジメントを前倒しする等、経営の視点で考えることはできないか。

答 事業のスクラップアンドビルドをより一層やっていく。

児玉敬三（こだま けいそう）議員

三原城天主台跡の堀の管理について

問 急激な気温の上昇で藻の繁殖が急速に進み、鯉の姿が見えにくい状況であり、ごみの浮遊も多い。今後の管理の進め方、対応について問う。

答 藻が発生した直後から、広島経済同友会三原支部や養魚場の方と、人力での回収や薬品散布等の対策を協議し、藻の発生や枯らす効果のある薬品を散布した。今後状況を見ながら藻の除去について検討していきたい。

　堀の鯉に関して予想以上に多くの方の関心や応援、期待の声もあり、憩いの場、歴史を感じ取れる場、観光振興活性化につながる場として適正な管理の必要性がある。今後もできる限りの対応策を取っていきたい。

　ごみの投げ捨てについても、看板などで周知を図り、訪れる方のご協力をいただけるよう早急に取り組んでいく。

堀の清掃状況（H29.5.22）

中門跡の堀の水質管理について

問 三原城跡整備基本計画策定報告書に、現状と課題について「現在は完全な溜まり水であり夏場のアオコの発生等水質の悪化が確認されている」将来像の設定には「堀跡については不快感のない水質に浄化し維持していくことをめざす」と明記されているが現状は、水草の異様な繁殖、水質の悪化が見られる。現状と課題を把握していながら改善がなされていないのはなぜか。堀の清掃、水質管理の今後の取り組みについて問う。

答 三原城跡中門跡は三原城跡として昭和55年に追加指定され、ペアシティ三原西館の整備に伴い宅地から堀へと整備されたものである。堀には排水口及び流入水口がなく、底から湧いてくる水により水位が保たれている。ごみや藻の処理は、委託により実施しており、南北の堀に各1基のエアリフトを設置し、水の循環を促すことで水質悪化の抑制に努めている。

　湧き水との入れかえで水質改善を図り、流入水の確保及び排水口の設置についても継続して調査、検討をしていく。

■その他の質問事項

●船入櫓跡の石垣の修復について